

経営比較分析表（平成29年度決算）

兵庫県 佐用町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	16.69	100.00	4,013

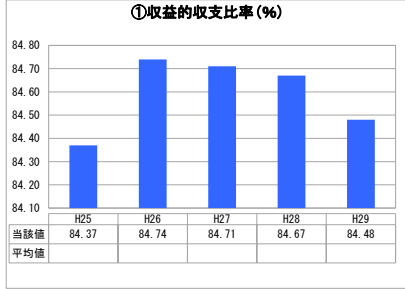
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
17,354	307.44	56.45
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,866	1.37	2,091.97

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



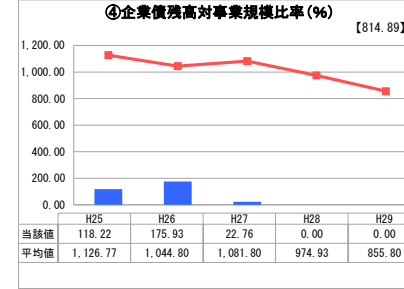
「単年度の収支」



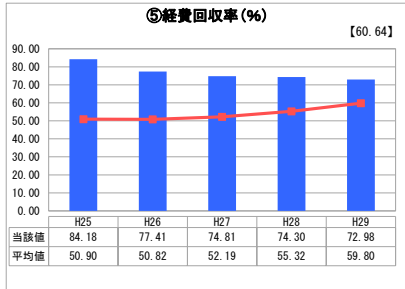
「累積欠損」



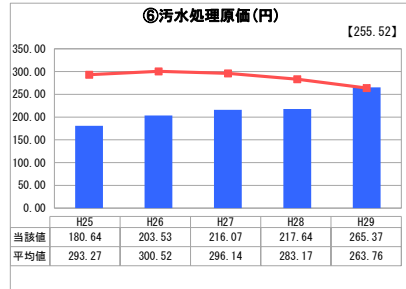
「支払能力」



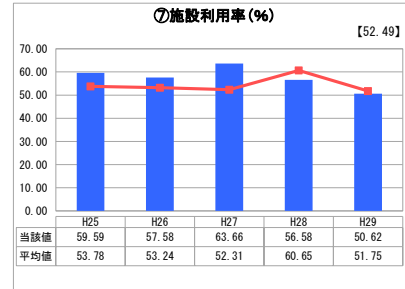
「債務残高」



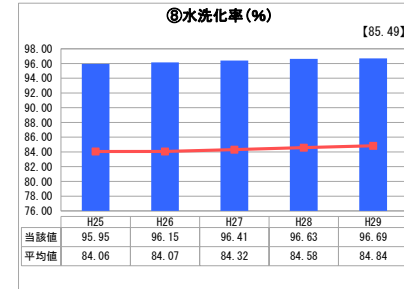
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

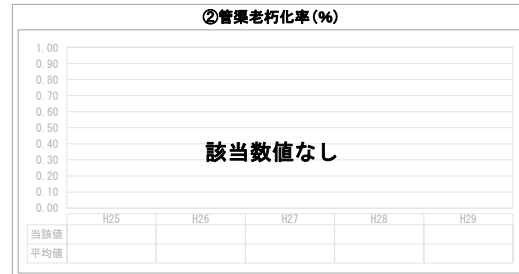


「使用料対象の捕捉」

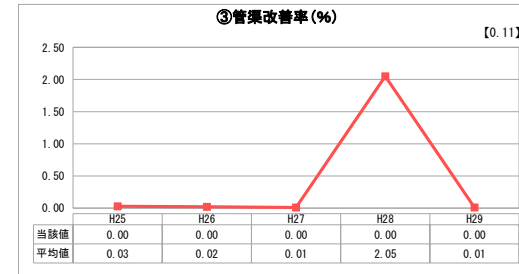
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①収益的収支比率は減少傾向にあり、維持管理経費の節減等改善の必要がある。
- ②企業債残高対事業規模比率は類似団体と比較しても低い数値であるが、公共下水道事業への統合など投資規模の適切化を図っていく。
- ③経費回収率については、類似団体より高いが、一般会計からの繰入に依存しているのが現状である。維持管理経費節減を検討する必要がある。
- ④汚水処理原価は増加傾向にあり、今後も人口減少により有収水量が低下し、汚水処理コストの増加となる可能性がある。
- ⑤施設利用率は、人口減少により利用率が減少傾向であり、事業統合等により類似施設を縮小する必要がある。
- ⑥水洗化率は高い水準にあり、今後も引き続き水洗化推進を図る。

2. 老朽化の状況について

- ③管渠改善は、21年の災害復旧事業優先により未実施である。今後は事業統合及び長寿命化による計画により、必要な管渠の更新を図る。

全体総括

山間地という不利な立地条件のため、住居が点在しており維持管理にかかるコストが、都市部など人口密度が高い地域に比べて割高になるのが避けられない状況であり、一般会計からの補填により事業を維持せざるをえない。

人口減少による料金収入の減少、老朽化による更新の必要性もあるため、H30年度からは一部区域が特環下水へ統合し、効率的な施設の維持管理に取り組むことで長寿命化を計画的に実施する。

今後も経営戦略に基づき、長期的な視野のもとで効率的な経営に取り組み、経営改善に努める。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。